

《10月例会報告》

## 墓参と追悼集検討

10月3日(土)、有志メンバーが集まって庄司先生の眠る春秋苑に墓参に行ってきました。多摩丘陵に位置する広い霊園には柳田国男の墓地もあり、庄司先生との深い絆を感じました。

参加者：小田、花田、向井、尾崎、山田、武田、徳永

---

### 『追悼集』原稿締め切り

12月4日とします

---

墓参のあと、成城学園に戻り、各レポートの前に追悼集の編集方針等について打ち合わせをしました。あらまは次の通りです。皆さんのご協力をお願いいたします。

締め切り 12月4日(金)

原稿の量 A4 1枚程度(1600字前後)

内容 庄司先生への追悼文

原稿送付方法

メールで小田さんに送付してください。

・連絡先

[ [tomiodarian@yahoo.co.jp](mailto:tomiodarian@yahoo.co.jp) ]

---

**漢字の手書き文字には、  
許容範囲がある**  
向井吉人

---

学校での漢字の手書き指導で問題になる

ことの一つに、漢字のパーツが、はねるのか、出るのか、長いのか短いのかなどがある。

向井さんは9月に文化庁が発表した「国語に関する世論調査」についてコメントしているが、ここから様々なことがわかる。表記が異なる原因としてあげられるのは、学んだ世代の差、パソコンの書体の違いが大きいということがわかった。

字体表記には許容範囲があると認識している向井さんの立場からすると、「女」の右側が出るのか出ないのはいした差ではないのだ。(同感)。そういえば自分の理解した方法に妙にこだわりすぎる古参教員がいたのを思い出した。

背景には文科省の通達が徹底しなかったことがあるのだが、ことばの本質を考えるとあまり目くじらを立てることではないのだと感じた。

そのほか向井さんからはちまたの最先端のことばをスケッチした「ことばっちの冒険・2015(4)」、自身の昆虫採集の経験からクマゼミなど昆虫を熱く語る「〈こんちゅう〉草子・2015」、3年生の子供たちの昆虫に関する質問にき

ちんと答えた「向井博士の昆虫教室・余録」が紹介された。向井先生はまだまだ健筆で現役なのだと感じた次第だ。

---

## 印象教育の場所

尾崎光弘

---

今回、庄司先生の著作の中で『教育者としての青春』を印象教育の最たるものとして尾崎さんは取り上げた。

本書で庄司先生が語る印象教育の3つの柱は以下の内容だ。

- ・様々な経験の中から自らの心を養うこと
- ・仮説実験授業にも生かされた「人間がかわるナゾを解く」こと。
- ・楽しかったり快く感じたりする体験をさせること

このレポートに武田さんは「心証教育」といいかえてもいいのではないかという。山田さんは手紙をすぐに返信してくれる庄司先生の行為そのものが印象教育だと感じている、という。

これらは、庄司先生が持つ人間的な魅力や教師としての存在感がなせる技なのだが、現在においてはなかなかそういう魅力ある存在を許容する時代ではなくなりつつあるかもしれない。少なくとも印象に残る教育活動がしにくいのは事実なのだ。

---

## 『草枕』から

山田 学

---

漱石の『草枕』を取り上げ、その心象風景を探る論考。

この作品は漱石の中で英語と漢語と日本語の世界観がまともに衝突していると山田さんは読み解く。

夏目漱石の文章は俳句などの影響から一見読みやすくユーモラスなものもあるが、西洋、東洋、日本の文化の狭間で自らの生

き方を探った結果、孤高の存在という高みに達しざるを得なかった、と山田さんは分析する。

その悩みの深さからこそ山田さんが唱える「健康平和」のありかたが見えてくるというのだ。

これからも漱石を通してその研究を深めていくという。今後を期待したい。

---

## 国語教育なくして英語教育なし

徳永忠雄

---

小学校から始まった英語教育。塾で実際に教えている立場から見ると、国語教育こそ大丈夫なのかという疑念を持つ。

外国語教育は、言葉の技術学習だけでなく、背景にある文化を気づかせる必要がある。その言語性は自国語との相対化で生まれるはずだ。我々は相対化すべき自国語をしっかりと身につけているのだろうか。

英語の広汎な広がりには、植民地の宗主国の言語を伝播させた政治的な歴史性があるが、昨今の経済のグローバル化がもう一つの推進役となっている。

小田さんは、新渡戸稲造と柳田国男の間でも英語教育に関する思いはそれぞれあったという。国際連盟で言語的孤立の憂き目にあった柳田の中に、日本語（国語）教育の充実という意識は強くあった。

庄司先生がいう「きっかけ言葉」の援用こそ内省的になりやすい日本語の表現力を外に向かわせているという小田さんの指摘に一同納得。

### ●全面研緊急例会のお知らせ

日時：12月5日（土）14：00～

場所：成城学園大学職員棟3F

内容：追悼集、偲ぶ会について

終了後持ち込みレポート発表あり

